

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第107号

令和2年3月10日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

楠正行の軍団は、南（和泉）軍と北（河内）軍で構成

総大将は、大塚惟正と橋本正茂

＝ 残っていない正時や賢秀らの軍忠の記録 ＝

2月例会は、「楠正行の軍団」について学びました。正行の軍団と言えば、太平記にも登場する従兄弟の和田賢秀が有名ですが、他の武将についてはほとんど知られていません。正平3年1月5日の四條畷の戦いで討ち死にし、四條畷神社に祀られる正行以下25柱の武将名も、同子息や同人舎弟、誉田某などと確かな氏名の分からない者も含まれています。

残された軍忠状等から正行に従ったと思われる武将について、下記のとおりまとめました。

南軍（和泉軍）の総大将は、大塚惟正で、軍忠状にも数多く出てきますし、四條畷の合戦で亡くなっています。しかし、惟正は正行とともに討ち死にせず、別の場所で正行の死を知り、果敢に戦い命を落としていますので、四條畷神社に合祀されていません。

北軍（河内軍）の総大将は、橋本正茂ですが、正茂は城代家老の様な存在で、主に城詰を担っています。北軍の實質の中心武将は高木遠盛で、その軍忠は抜きこんでいます。

従兄弟の和田賢秀や、常陸國瓜連で佐竹勢と1年にわたって交戦した楠正家などの軍忠・行動はほとんど明らかになっていません。

また、友軍として、紀伊の安間親子や、大和の三輪親子が知られています。

■資料／楠正行の軍団

●印：四條畷神社に合祀されている武将
数字：四條畷合戦当時の推定年齢

南軍（和泉軍）

●和田新兵衛高家／23／・河内国石川郡（河内長野市）・正季の子、行忠とも。正行の従兄弟・和泉代官 岸和田城築城・岸の和田と呼ばれるようになり、当地を岸和田と呼ぶようになった（伝承・岸和田市史）

□守護代大塚掃部助惟正／36／和泉守護代／・河内国石川郡（河南町）・正行側近中の側近で、南軍（和泉軍）総大将。・四條畷の合戦で討ち死・延元元年11月18日、和田氏に吉

野総門大番役の勤司を命令。・延元2年1月1日、平石、八木らを伴い和泉に出陣、足利と攻防始まる。・延元2年3月2日、治氏と古市に城を築く。・延元2年3月10日、治氏、平石、八木や細川顯氏と古市合戦。

□八木弥太郎入道法達／和泉目代／・和泉国南郡八木郷（岸和田市）を本領とする国御家人・和泉の管領大塔宮、近臣四条隆貞の家人と思われる

□神宮寺新判官正房／・河内国石川郡（千早赤阪村）・河内国高安郡神宮寺（八尾市）が本貫とも。・太平記では、神宮寺の太郎兵衛正師の名で登場。・楠氏八臣にも数えられる。

□土生彦次郎義綱

□上郷左衛門太郎俊顯／うえのごう

□上郷俊康

□岸和田弥五郎治氏／和泉国人／・岸の和田から岸和田になったとの説も。治氏、快智、定智は親子か、兄弟か不明・大塚正連に近侍・延元元年6月19日、京都攻防戦に参戦。・延元元年8月1日、大塔宮を奉じ八幡に参戦。・快智、定智と横山に赴き敵の館を焼く。

□岸和田侍従房快智／和泉国人／・治氏の一族・延元2年5月14日、定智、治氏と武家軍を天王寺に攻める。

□岸和田大輔房定智／和泉国人／・治氏の一族・延元2年6月、快智、治氏と宮里城を波状攻撃。

□上神六郎兵衛尉範秀／・にわのりひで 和田庄の北に隣接する上郷郷の国御家人・延元2年9月、惟正、定智、治氏、上郷と宮里城を攻める。

□大塚新左衛門尉正連／・大塚惟正の子・延元2年10月13日、定智、治氏を指揮して槇尾寺を出て幕府軍を撃退。

●大塚惟久／大塚惟正の弟

□実弁／金剛寺衆徒

□弁房／槇尾寺衆徒

□須屋武親／・河内国石川郡（河南町）・錦部郡（現在の河内長野市、富田林市）を代表する楠一族とも。

□甲斐庄氏／・河内国錦部郡（河内長野市）を代表する楠

一族・石清水八幡宮領甲斐荘は天見地域を拠点とする。
□河野辺氏／・河内国石川郡（千早赤阪村）

北軍（河内軍）

□橋本九郎左衛門尉正茂／34／河内守護代／・和泉の国日根野橋本を本貫とする。・四條畷の合戦では、正儀護り役として河内東条に残る。・北軍（河内軍）総大将。正行の重臣。・延元元年9月、畠山国清と攻防・高木遠盛、和田正興と河内松原城を攻める。

□高木八郎兵衛尉遠盛／河内国人／・正茂の配下。・北軍の中心武将。軍忠が抜きんでいる。・延元2年7月4日、小山忠能の加勢を得て八尾城攻撃。・延元2年8月16日、五条河原で戦う。・延元3年5月22日、河内高安で攻防。・延元3年6月、河内曲松、洞ヶ峠等、各地で合戦。

□小山三郎左衛門尉忠能／紀伊

□和田佐兵衛尉正興／・橋本正茂配下。・高木遠盛と丹下城を攻める。・高木遠盛と池尻・野田城の敵を駆逐する。

□和田正武／30／・正興の弟。堺浦、城岸寺城の城主。・延元3年8月9日、尊氏が吉野を襲うとの報あり、吉野を警護する。

□佐備三郎左衛門尉正忠／・河内国石川郡（富田林市）・延元3年9月29日、高木遠盛と池尻で戦う。

□和田助家／・日和見主義 元弘の変で敵方、幕府滅亡後に官方・延元3年11月18日、吉野総門大番役を務める旨の端書を発す。

□和田助氏／29／河内守護代／助家の孫 正平7年、官方に暗殺される

□平石源次郎／・ひらいわ 河内国石川郡（河南町）・橋本正茂に近似

河内東条軍

□楠正右／守護

●楠正時／21

□楠正儀／20

●和田新八意賢秀／22／・正季の子。高家（行忠）の弟。正行の従兄弟。

●楠左近将監正家／・正成の弟とも、甥とも。・正成の代官として常陸国瓜連で佐竹と1年戦う。・秋田県由利本荘市に墓が残る

●同人子息

□恩地左近／恩地城主 正行の後見役 延元2年病死

友軍

●安間了願／41／・紀伊の国人。淡路島出身？・延元2年10月4日、丹下城を攻める。・延元2年10月5日、高木と八尾城を攻撃。・延元2年10月10日、正成築城の二上城の護役を勤める。

□安間了意／・了願の子。・四條畷の合戦後、正行の首級を吉野に葬ろうとするが宇治六地蔵に隠遁。

●三輪西阿／61／・大和・興国2年7月2日、戒重城落ち、7月3日、了円と河内東条に入る。

●三輪了円／26／・西阿の子

●青屋刑部／吉野衆

●和田紀六左衛門

●同子息二人

●野田四郎

●同子息二人

●金岸某

●同人舎弟

●関住良圓

●同人子息

●河邊石菊丸

●誉田某

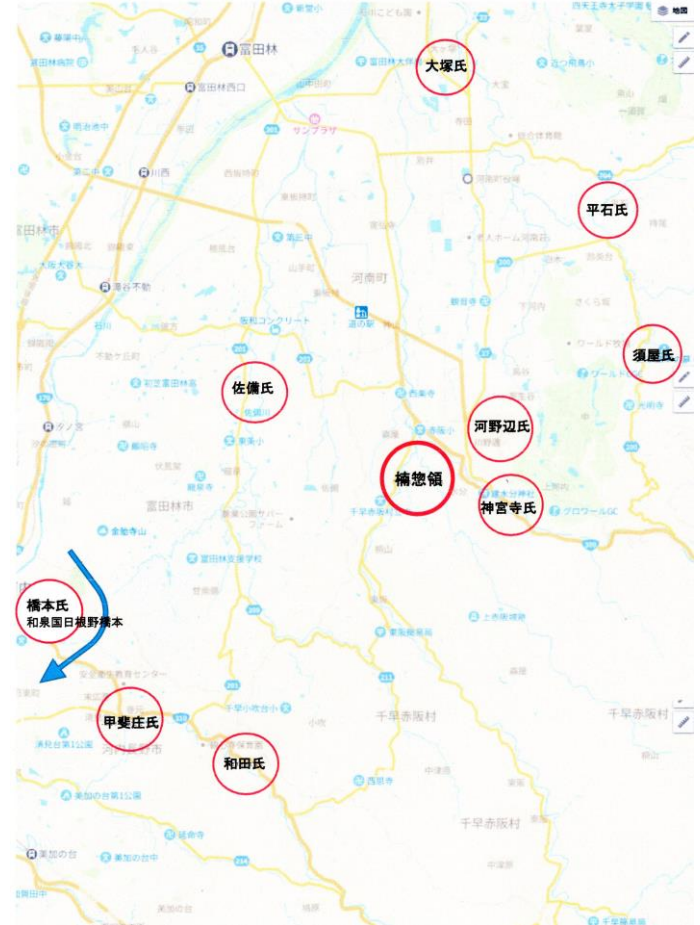
●畠山與三職俊

●畠山文郎

楠一族の分布図

○楠一族の分布図 四條畷楠正行の会 2020年2月例会資料

2013.1.19 千早赤阪村村民大学・歴史講座「楠木正成とその一族『楠木合戦』」資料②より転載／扇谷編集



四條畷楠正行の会、各紙に登場 1月、毎日新聞、奈良新聞、産経新聞に

1月の新聞各紙に楠正行関係の記事が次々と掲載されました。

18日付毎日新聞朝刊・大阪地域面に「わが町にも歴史あり・知られざる大阪・東高野街道⑨四條畷市」では、小楠公墓所が取り上げられ、境内の社務所の屋根瓦に残る楠氏の「菊水の家紋」（水流の流れが左から右へ流れる）が紹介されました。

24日付奈良新聞朝刊・文化面には、私たちの正行論文募集の記事が大きく取り上げられました。

また同日付産経新聞では、茨城県那珂市素鷲神社から発見された楠正家郷と書かれた武者像が紹介されました。

（文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭）